

地球温暖に伴う影響調査報告

尾瀬国立公園特別保護地区「白砂湿原」のオランダガラシ除去報告書

NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク

担当理事 永島 勲

- ・最終調査日：2011年7月16日（土）、福島側の入山指導終了後に調査
- ・場 所：尾瀬国立公園特別保護地区の白砂湿原（標高1,670m）
- ・調査手法：目視調査
- ・除去植物：オランダガラシ：アブラナ科オランダガラシ属の多年草、原産地はヨーロッパ、明治初期に食用として移入（要注意外来生物に指定）、別名：クレソン
- ・除去作業日：2011年（平成23年）10月8日（土） 天候：晴れ

地球温暖化影響調査の一環として2009年に試験調査を始めた移入植物のオランダガラシは、2011年に調査から除去へと新たな段階に入った。

ネットワークは2011年10月8日、環境省等の許可の下に尾瀬国立公園の白砂湿原において移入植物のオランダガラシ（別名：クレソン）の除去作業を実施した。

煩雑な許認可手続き

尾瀬に入山する場合は、誰もが許可なくいつでも自由に入れるが、植物等の採取（除去）の場合は、事前に許認可を得る手続きが必要となる。

白砂湿原の除去作業



尾瀬の特別保護地区には法律の網が幾重にも被っている。

許可申請はその法律毎の一つひとつ行うことになる。

まず、①環境省（関東地方環境事務所檜枝岐事務所）：自然公園法、福島県南会津地方振興局経由で申請する。

次に②会津森林管理署（南会津支署）：水源涵養保安林（保安林内作業行為の同意および国有林野入林許可）、さらに福島

県関係では③南会津農林事務所：森林法、④南会津地方振興局：鳥獣保護法、そして⑤檜枝岐村（教育委員会）：文化財保護法、へ許可申請書を提出する。

作業期間や採取者が一名指定され、除去作業前後には作業着手届や作業完了届（写真添付）を提出する。申請書はWebからダウンロードする。各機関には申請書の作成において親切丁寧にご指導を頂きました。

除去作業の実際

当日は入山指導を1回実施後、尾瀬沼ビジターセンタに立ち寄り除去作業実施の報告を

する。現地で注意事項の確認と4人の役割分担を決めて作業に入る。

作業中は許可書を掲示しなければならないので、一人が木道上に立ち掲示係を兼ねてハイカーへの対応も行った。

オランダガラシは白い糸のような根が長く伸びていて(10~15 cm)想像以上に抜き取りが難しい。根や茎を切らないよう慎重に抜き取り水切りをする。切れた根や茎も全て拾い上げる。1時間の作業で8.3Kgのオランダガラシを除去した。

作業時に多くのハイカーから質問を受けた。その都度説明をしたが、クレスンが何故尾瀬にあるのかと、一様に驚いていた。

移入植物は国・県による除去を

オランダガラシは明治の初め頃、食用として日本に移入されたと言われている。繁殖力は

極めて旺盛で、切れた根や茎からも容易に発芽する。尾瀬の流水域で生息地を拡大している。このまま放置すれば在来種の生態系を脅かす恐れがある。

7月中旬の調査の時は、湿原の中流部にはオランダガラシは見当たらなかったが、除去作業時には10株以上あった。推測であるが、豪雨の時、別の所から流れて来たのであろう。今回の許可は木道上からの除去のため、全てを除去することは出来なかった。これらの除去は来年度以降の課題とする。

除去したオランダガラシ



する。

尾瀬では白砂湿原の外に下田代や上田代にもオランダガラシが侵入している。特に下田代の赤田代寄りの「高菜堀」には大群落がある。湿原の生態系を護るために、国や県による早期かつ広範囲にわたる除去を強く要請したい。

【除去作業担当者】

熊田順子(福島県)、小鮎守(群馬県)、椎名宏子(東京都)、永島勲(埼玉県)

以上